

# 播州歯技だより二五号

二〇二六年三月発行

兵庫県歯科技工士会播州地区

令和八年度を迎えて

播州地区長 壺坂英哉

去年のこの歯技だよりでは「石破政権になってどうなりですか？」と書き始めてましたが今年は「高市政権になってどうなりですか？」と始めなければなりません。未知数ながら菅、岸田、石破と続いた停滞と打算の政治とは異なり変化と挑戦の政治となりそうです。県政では相変らずの斎藤知事ですが自維政権となり自民県議も強く出れなくうやむやになりそうです。昨夏からのトランプ関税は米最高裁で違法判決が出て激怒のトランプ大統領の今後が気がりです。歯科業界では貴金属の爆高騰が少し落ち着きましたが高止まりしており補綴物の脱貴金属が進みそうでチタン冠をブ

リッジに適応拡大するとかPeak材の前装冠が保険に入るとか無理難題の様相です、昨年末保険適用になった3Dプリント義歯ですが従来技工で咬合床まで作って口腔内咬合採得してそこから排列試適無しで完成だとか、うまくいくのでしょうか？その3Dプリンタですが私の職場でも導入してます、フルアーチ対応の機械でもCAD/CAMマシンよりはるかに小型で速く出来（一度に一つの材料一つの色しか印刷出来ませんが）、CAMマシンの切削ドリル等メンテに気を遣わなく材料にも無駄が少なく歯科医院で導入するところが増えそうです、そうなれば3Dプリントの歯冠補綴も保険適用されていくように思われますと新技術新材料新機械と何かと変化して行く技工界ですが勉強していきましょう。

## 佐賀県の生月島に行つて来ました

高田明典

2025年も終わる頃に福岡県と山陰地方や山間部が寒波のせいで雪が降るかも知れないと天気予報で知ることになり、車のタイヤをスタッドレスタイヤに変えて準備をしていました。今回は正月休みを外して4日の朝から出て5日、9日と普通の日を選びました。山陽自動車道に乗ったときは、まだ暗く車も少ないしサービスエリアも人が少なくなくて気持ちよくドライブ出来た。忘れていましたが目的地は九州方面の佐賀県生月島に火山活動の時に流れ出た溶岩が固まって出来た柱状節理が海岸沿いに有るらしい、それを見に行くのが目的です。話は元に戻し山陽道を走って広島県の山間部で高速道路の両脇に雪が残っていて、先日はここら辺で雪による停滞があったのをニュースで知った。昼に下関の壇ノ浦パークキングエリアに着き、名物の瓦そばとフグのから揚げを食

べる。九州の自動車道に入り少し走って東九州自動車道に入り中津インターで降りて耶馬溪に行き、青の洞門でゆっくりとした。そこから阿蘇山に行くつもりが暗くなり始めたので熊本市のホテルに急いだ。夜の食事は熊本の繁華街をブラブラしていたら、韓国人だらけに気が付いた、店を聞こうと兄ちゃんに話しかけたら韓国語が帰ってきました。九州名物料理のゴボウ天いりの肉うどんが美味しかった。次の日は雨で熊本港からフェリーで島原市に行き雲仙岳に登り地獄めぐりのそばを走ったが雨で景色は見えず長崎県に入り西海橋を渡り佐世保市に行き軍港のそばを走り佐世保バーガーの本店が街並みを超えて山の中にあった。1700円の20センチくらいのを嫁さんと分けて食べたが美味しかった。今日の宿は平戸市に行き大江戸温泉物語ホテル蘭風に夕方に着きました、海辺の丘にある大きな白いホテルに圧倒されたデツカイな。中も広い9日の夜なのに人でいっぱい、また韓国

語が飛び交っていた。風呂も広いしバイキング料理も種類が豊富、子供がいたら喜ぶこと間違いなし。次の日は目的地の生月島へ南北10キロの細長い島で2000万年前に平戸層群が出来、800万年に松浦玄武岩がかさなってできた溶岩台地です。柱状節理は、溶岩流が厚い部分的に出来る、こちらの柱状節理は南北に500mの長さで海面から20mの高さの規模をもち、景観的にも優れ貴重なものです。生月島塩俵断崖の柱状節理と言います。昔のことになりますがバイクでこの近くの本州最西端まで来たことがありましたがその時は生月島に来る橋はまだ出ていなかったもので無理でした。生月島に大きな立派な橋が出来て、くることが出来て良かったと思います。





## 中東の行方

神田 聰

2026年2月28日 米国・イスラエルによる対イラン攻撃と、その後のイランによる報復攻撃を受け、中東情勢は一段と緊迫しています。トランプ大統領のコアな支持者層はイラク戦争（大量破壊兵器は無く「大儀なき戦争」）の二の舞を極度に恐れており、イランに対する大規模攻撃を支持する人は半々かと思えます。懸念されるはホルムズ海峡の封鎖によるエネルギー運搬の進捗状況、既に戦火はペルシヤ湾岸地域全域に拡大しつつあり、石油価格上昇を含む国際経済への影響も出始めています。今回の軍事行動は単なる一時的衝突ではなく、中東地域秩序と核管理体制の将来に長期的影響を与える可能性が高いでしょう。トランプ政権は2025年9月の攻撃（いわゆる「一二日間戦争」）でイランの核関連施設とミサイル関連施設に打撃を与えたが、決定的な解決には至ら

なかった。その後、2026年2月に再開されたジュネーブでの間接交渉では、米側は濃縮活動の停止（「ゼロ濃縮」）を柱に、弾道ミサイルや地域の武装勢力支援までを射程に収めた包括的な譲歩を求めていた。もう一方でイラン側は、核兵器不拡散条約（NPT）で認められた「奪い得ない権利」として平和的濃縮の権利承認を求め、さらにミサイルは抑止の中核として交渉対象外とする姿勢を崩していなかった。ここに根本的な隔たりが存在した。さらに、イラン側の内政要因も協議の進展を難しくしていた。2025年末から続いた抗議運動と、それに対する治安機関の苛烈な弾圧は、体制の正統性と統治能力の双方に大きな傷跡を残した。ペゼシキアン大統領は社会の亀裂修復に言及しつつも、妥協は体制弱体化につながるとの懸念から、イスラム体制護持のための引き締めが最優先とされた。トランプ大統領が体制転換を示唆する発言を重ねたことは、対外的譲歩を一段と困難にし、逆に抑

止力としての核・ミサイル・地域の武装勢力を手放せないという認識を強化した。イラン・米国に加えて、第三の変数としてのイスラエルの存在も交渉の行方を大きく左右した。イスラエルは昨年9月の攻撃以降、弱体化したイラン現体制に（体制転換に至るような）決定的な打撃を与える必要性をトランプ大統領に強く訴え、交渉がむしろ攻撃計画を阻害することを懸念してきた。もう一方でトランプ大統領自身は、2026年1月のベネズエラでの作戦成功で自信をつけていた。こうして米国・イラン・イスラエルのそれぞれの妥協可能範囲が最後まで統合されず、交渉は行き詰まり、最終的にはイスラエルに押し切られるかたちで、12月28日、米・イスラエルによるイラン共同攻撃に踏み込みました。

「壮絶な怒り作戦」の最大の勝者は日本の高市首相だ！という論文がアメリカの一流シンクタンク「ハドソン研究所」で発表されました。発表されたのはモロッコ人のジネブ・リ

ボア氏、実はワシントンポストの社説にも引用されるほど注目されています。最高指導者ハネメイ氏や政府中枢が殺され反撃に出たイランにとっては肝心の味方であるはずのロシアと中国が何もしない。言葉で「国際法違反だ」とか米軍機の情報をイラン側に流してはいるものの戦略的パートナーシップを結んでいるのにも関わらず軍事的な行動は起こしてはいません、運命共同体って薄っぺらい協定です。1月26日にイラン中国ロシアは10か国戦略協定を結んでいます、中国は「核問題を含む」軍事 経済 外交で連携するらしいですが頼りにならない面が世界にさらけ出したことでその国に対する信用度が地に落ちました、逆に対照的なのは日本だとリボアさんは言っています。高市首相の下でものすごく戦略的 ASEAN諸国に支援をしています、中国の脅威に戦々恐々している諸国に対して防衛連携の構築に巡視船やレーダーシステムの提供、湾岸警備隊の育成に指導員を送って訓練など

を行ってます。この支援は今に始めたことではなく安倍元首相の頃から継続されていて東南アジア諸国が自ら守る力を作るのを日本がお手伝いする事で日本に対する信頼度をあげています。日本と中国のこのような姿勢の違いを発展途上国（グローバルサウス）の人々は「ちゃんと見ている」「ここが高市さんと習近平の違いなんだ」と理解してきたとリボア氏は言ってます。もう一方でイランは中国共産党による台湾進攻計画において極めて重要な存在だ、その理由は二つ。第一の理由はイランは制裁回避において決定的な役割を果たしている。西側の金融システムを回避するための独自の取引ネットワークを構築してきた。物々交換等とドルではなく人民元が使えるようにし西側の金融チャンネルを経由せず取引を行う仕組みだ。これまで中国共産党はこの仕組みを通じてイランが国際的な制裁を回避出来るよう支援してきた、将来台湾進攻によって世界的な経済制裁を受けた場合で

もイランの協力によって中共が制裁を回避出来る可能性があるという。第二の理由は侵攻が起きた場合中共は米国の注意を分散させたいと考えている。リボア氏はイランが支援する過激派のフーシ派を例に挙げ、もし中共が台湾に侵攻すればフーシ派が紅海で航行する船舶を攻撃し欧米に日々巨額の経済的損失を与える可能性があるという、その結果米国は紅海での軍事対応余儀なくされさらにフーシ派のゲリラ戦的な戦術は欧米同盟国の間に不信感を生む可能性もあると指摘した。こうした戦線を終結させることはインド太平洋地域の安全保障にとって極めて重要だと考えています。中国共産党は過去20年に渡り巨額の資金を投入して湾岸諸国やイラン当局さらにイランの代理人を送り込み関係構築や提携を積極的に進めてきた、リボア氏によると中共はイランのために中国の「天網」の類する監視システムを構築し通信インフラの再建や産業支援を進めてきた、一方で中共は化学分野

などの中核技術（コア技術）を掌握してイランをコントロールできる状態に置いているという、さらに中共は建設したインフラの利用料を徴収するだけではなくこれによって人口

## 総務報告

三浦 雅志

〇 千万人を抱えるイラン市場をほぼ独占しているとも指摘

十一月九日（日）

明石市歯科医師会イベント

した。中共がこれらすべてを完遂できた前提には中東におけ

明石保健所

る米国の影響力低下があるという、この状況（米国の影響力

有末 山口 加藤 神田 筒井

低下と中共の台頭）を逆転させることこそ「壮絶の怒り作戦」

揖龍歯科医師会イベント

が実現しようとしているものだ。この点を理解することが今

たつの市はつらつセンター

後の情勢を見ていくうえで極めて重要だと考えます。

壺阪 斎明寺 高田 片岡

「中国は緊急対応を進めている」より

十一月三十日（日）

播州地区A・BC会議

たつの市経済交流センター

令和八年

一月三十一日（土） 地区長会 県技士会館 壺坂

播州地区歯科技工士会新年会

居酒屋 良寛

参加者十二名

三月七日（土） 姫路歯科衛生専門学校卒業式

アクリエ姫路 壺坂

おかげさまで「播州歯技だより二十五号」を発行する事

が出来ました。なにより会員の皆様の原稿あつての会報です。

どんな些細な事、身の周りで起きた出来事、社会批判等なん

でも結構ですので お知らせください。次回第二十六号です

が、二〇二六年八月中旬頃までに送って頂ければ幸いです。

よろしくお願い致します。

広報 神田 聰

## 播州地区メーリングリスト登録募集中

技工士会播州地区各役員 県理事 各個人からの

E-MAIL 連絡として現在二十名の会員登録済です、携帯端

末 パソコン等のメールアドレスを連絡して頂ければ登録

いたします。

[satchijunshu@gmail.com](mailto:satchijunshu@gmail.com)

## 会報掲載記事募集！

会員の皆様の近況報告 趣味等 身近な出来事 文章は短くてもかまいません よろしくお願い致します。

[satchijunshu@gmail.com](mailto:satchijunshu@gmail.com)

一般社団法人兵庫県

歯科技工士会播州地区

地区長 県技副会長 壺坂 英哉

広報 神田 聰